

第1回 全国小児科医師現状調査

報告書

東京女子医科大学

加藤 郁子 (小児科)

竹宮 孝子 (総合研究所研究部)

大澤 真木子 (小児科)

猪子	香代	(東京都精神医学総合研究所児童思春期部門)
岡本	和美	(奈良県医師会)
河西	悦子	(神奈川県衛生部)
溝部	達子	(溝部子供クリニック)
三石	知左子	(葛飾赤十字産院)
桃井	真里子	(自治医科大学小児科)
山上	実千子	(恵仁堂医院)
清野	佳紀	(大阪厚生年金病院)
古川	漸	(山口大学医学部小児科)
衛藤	義勝	(慈恵会医科大学小児科)

全国の小児科医師現状調査

調査の概要

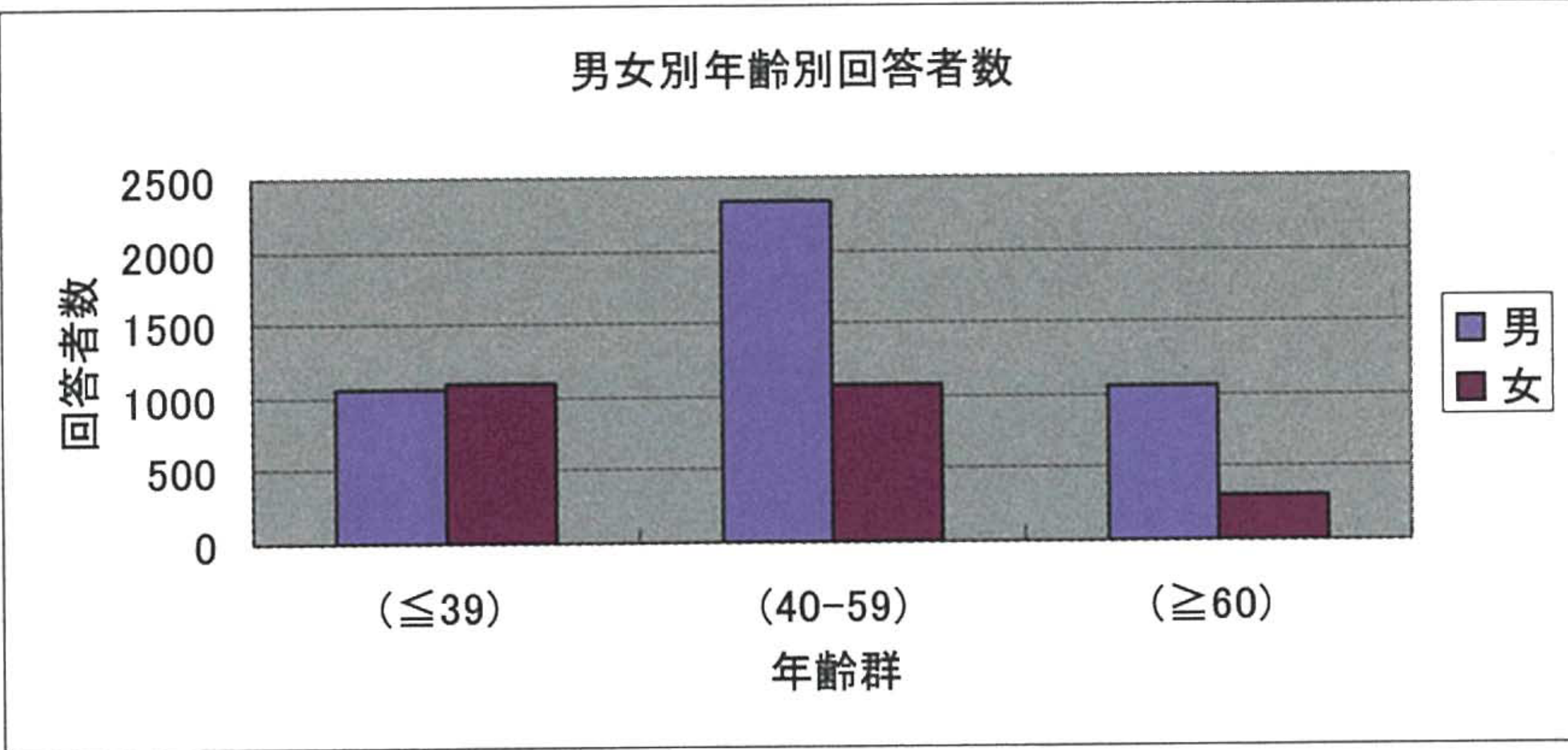
対象

小児科学会会員名簿をもとに 2004 年 1 月郵送自記入式無記名アンケート調査を行った。送付は全 18950 通、有効回答数 6950 通、有効回答率は 36.6%であった。以下にその結果の概要を示す。

問 1 および問 2 回答者の年齢と性別

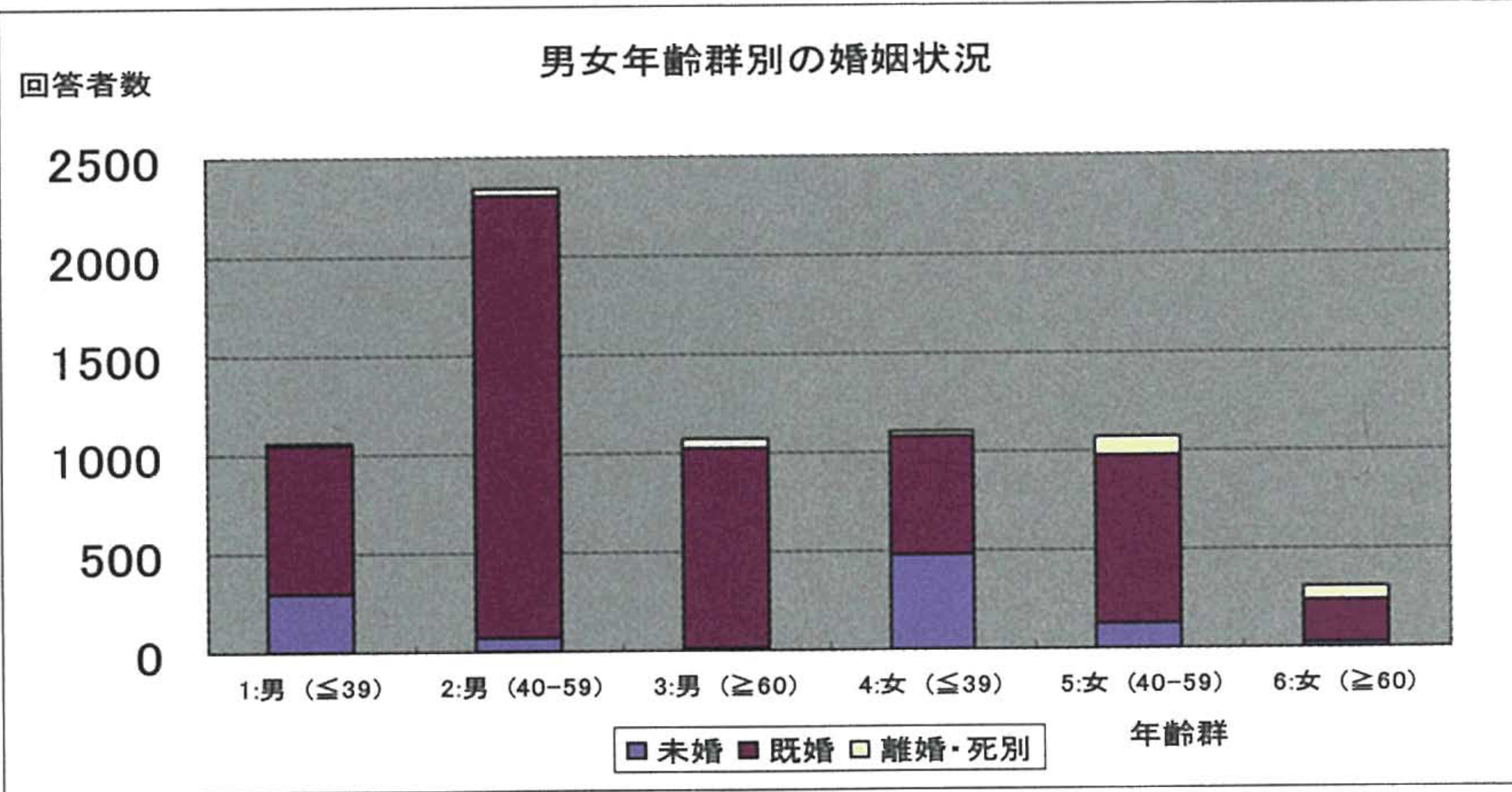
回答者は男性 4472 人（64.3%）、女性 2478 人（35.7%）であり、平均年齢は男性 50.0±14.1 歳、女性 43.8±13.1 歳であった。年齢幅は男性 24 から 100 歳、女性 24 歳から 92 歳であった。

	性別 × 年齢						Total
	1: 男 (≤39)	2: 男 (40-59)	3: 男 (≥60)	4: 女 (≤39)	5: 女 (40-59)	6: 女 (≥60)	
回答者数	1062	2344	1066	1101	1070	307	6950
平均値	33.11	48.50	70.51	32.37	48.30	68.77	47.83
標準偏差	4.06	5.23	6.70	3.96	5.57	6.91	14.05



問 3 婚姻の有無

既婚者は全回答者のうち 5668 人（81.6%）で、男性 4005 人（男性回答者の 89.6%）、女性 1472 人（女性回答者の 59.4%）であった。

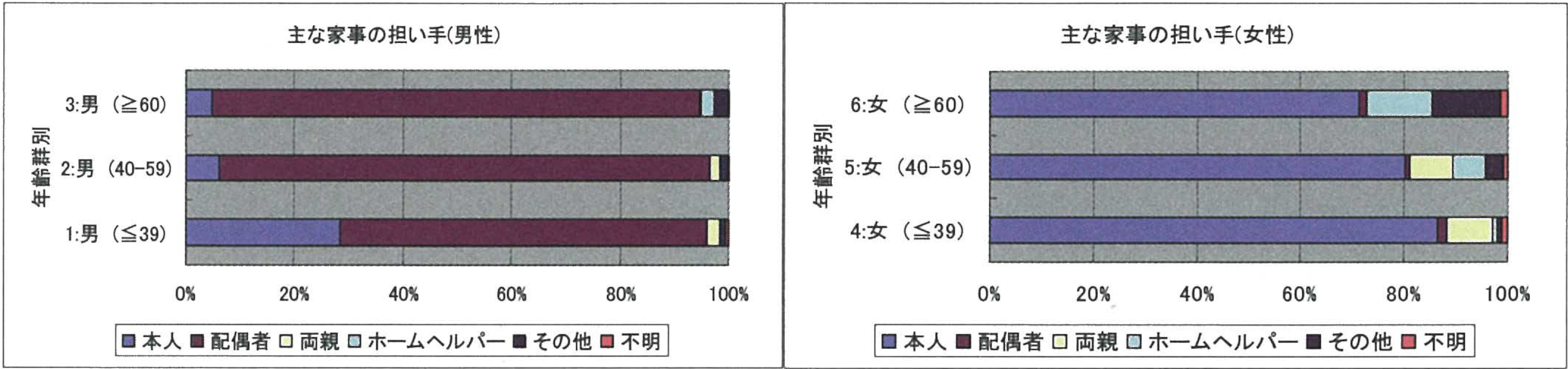


問 4 主に家事をしている者

本人と答えた 2529 人のうち男性 499 人（19.7%）女性 2030 人（80.3%）、配偶者と答えた 3829 人のうち男性 3796 人（99.1%）女性 33 人（0.9%）であり、家事の担い手はほとんどが女性であった。両親、ホームヘルパーと答えたものはそれぞれ 255 人（3.7%）、151 人（2.2%）であった。以下、問 4、5、7、14、

17、24 については、表中回答者数が最も多いセルに男性は水色、女性はローズ、次に回答者が多いセルに男性は薄い水色、女性はベージュで着色した。

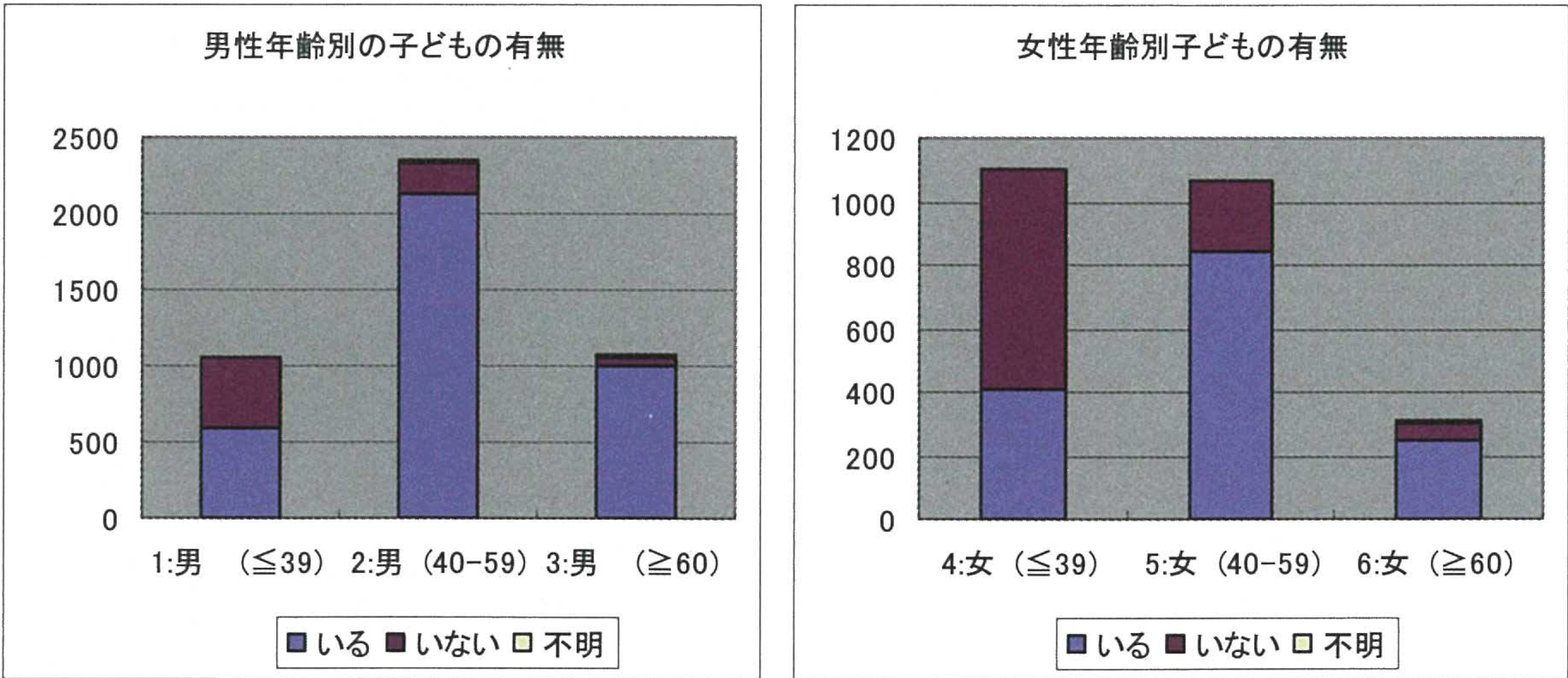
主に家事をする人	1:男 (≤39)	2:男 (40-59)	3:男 (≥60)	4:女 (≤39)	5:女 (40-59)	6:女 (≥60)	Total
本人	303	143	53	953	858	219	2529
配偶者	717	2122	957	20	9	4	3829
両親	26	40	1	98	90	.	255
ヘルパー	3	10	25	8	66	39	151
その他	8	26	29	8	39	41	151
不明	5	3	1	14	8	4	35
Total	1062	2344	1066	1101	1070	307	6950



問 5 子どもの有無

子どもがいると答えたものは 5234 人 (75.3%) いないと答えたものは 1703 人 (24.5%) 不明 13 人 (0.2%) であった。男性回答者のうち子どもがいるものは 3730 人 (83.4%) いないものは 735 人 (16.4%) 女性回答者のうち子どもがいるものは 1504 人 (60.7%) いないものは 968 人 (39.1%) であった。女性は 39 歳未満では子供がいない割合がいる割合より多かった。

子どもの有無	1:男 (≤39)	2:男 (40-59)	3:男 (≥60)	4:女 (≤39)	5:女 (40-59)	6:女 (≥60)	Total
いる	594	2138	998	411	841	252	5234
いない	467	204	64	687	229	52	1703
不明	1	2	4	3	.	3	13
Total	1062	2344	1066	1101	1070	307	6950

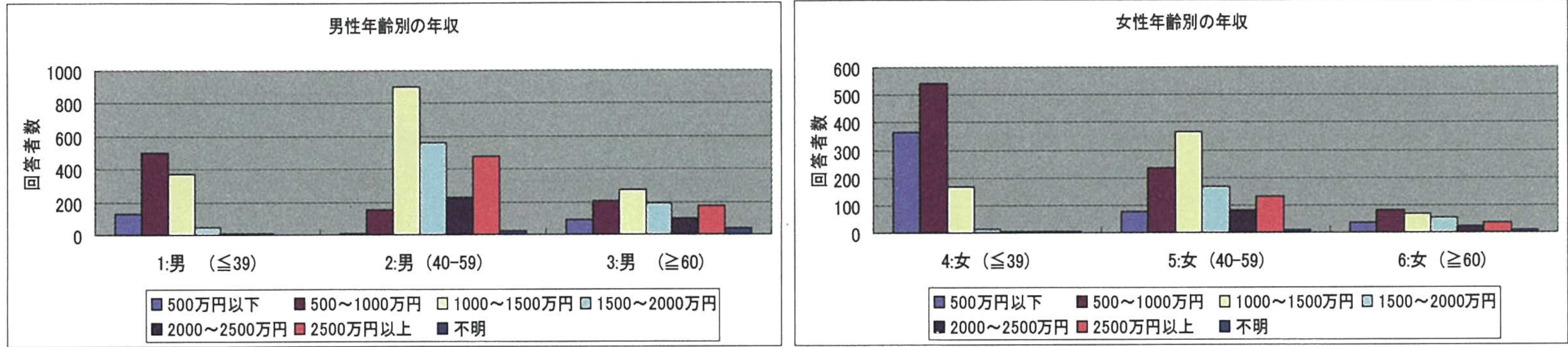


問 6 現在、卒後何年目か

現在の卒後年数は平均 22.3±13.9 年 (男性 24.3±14.0 年、女性 18.9±13.0 年) であった。

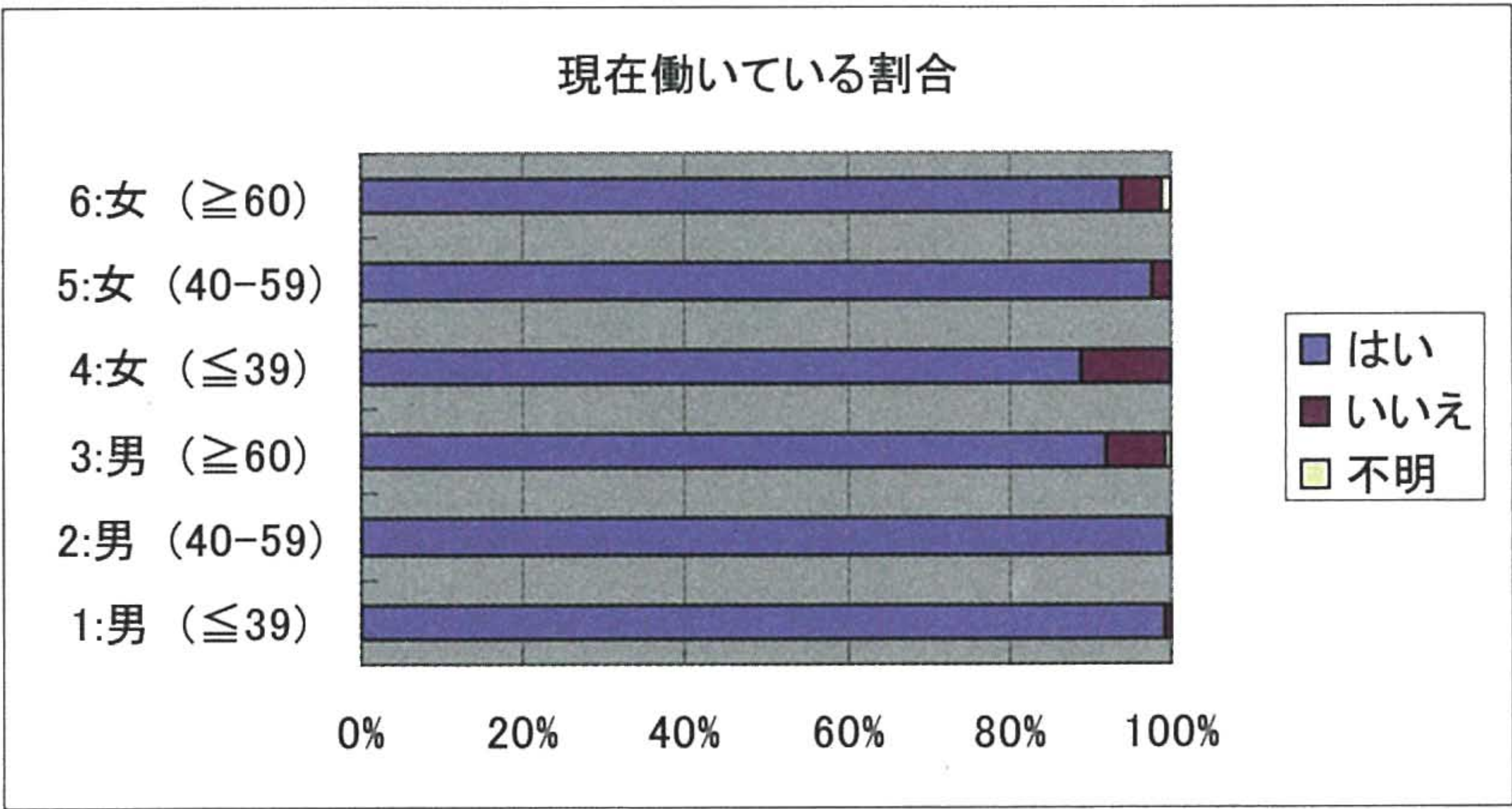
問 7 現在の年収

現在の年収	1: 男 (≤ 39)	2: 男 (40 - 59)	3: 男 (≥ 60)	4: 女 (≤ 39)	5: 女 (40 - 59)	6: 女 (≥ 60)	Total
500万円以下	129	11	94	364	77	35	710
500～1000万円	501	151	206	541	235	79	1713
1000～1500万円	370	898	272	167	364	69	2140
1500～2000万円	45	560	186	13	167	56	1027
2000～2500万円	8	226	101	4	83	24	446
2500万円以上	8	474	171	6	133	34	826
不明	1	24	36	6	11	10	88
Total	1062	2344	1066	1101	1070	307	6950



問 8 現在働いているか

現在働いているものは 6651 人（96.1%）男性 4350 人（男性就労率 97.6%）女性 2301 人（女性就労率 93.3%）であった。



問 9 （問 8 でいいえと答えた者）職場に籍はあるか

休職中の男性 34 人（休職男性の 36.2%）女性 70 人（休職女性の 44.0%）は在籍していた。39 歳未満の女性、60 歳以上の休職者では在籍していないという回答が在籍者を上回っていた。

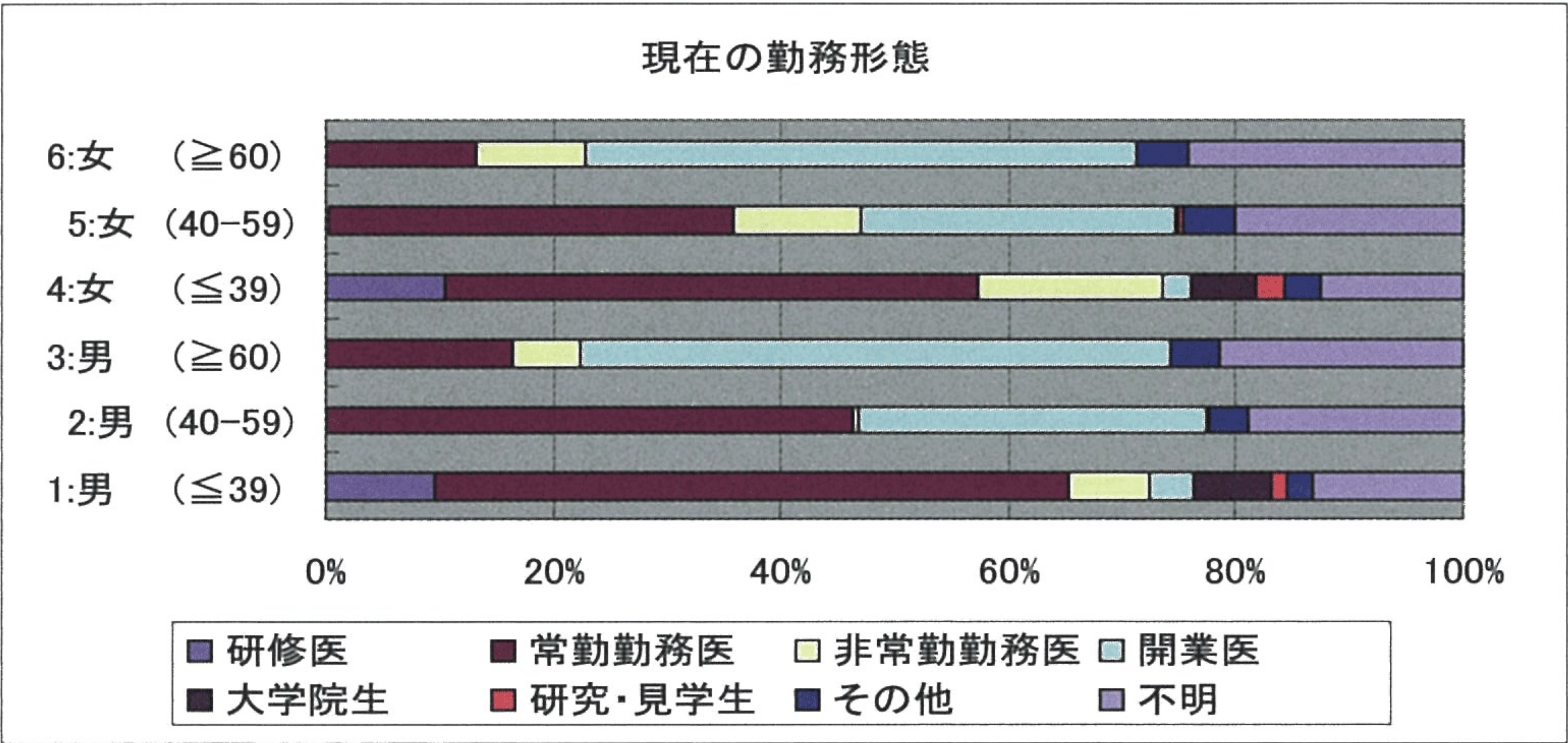
問 10 主な勤務地（現在）

主な勤務地 5 つは東京 841 人（12.2%）大阪 507 人（7.3%）神奈川 420 人（6.1%）福岡 336 人（4.9%）北海道 308 人（4.5%）であった。

問 11 現在の主な勤務形態（職種）

男性は常勤の勤務医 41.4%、非常勤の勤務医 3.3%、開業医は 29.5%である。女性は常勤の勤務医 37.9%、非常勤の勤務医 13.2%、開業医は 19.0%であり、男性より非常勤の割合が高かった。未婚者では男女の差はなかったが、既婚者

では 40-59 歳の男性に於いて常勤が 46.0% 開業医が 31.0%に対し、女性では常勤が 32.2%、非常勤が 13.3%、開業医が 28.8%であり、さらに 39 歳未満の女性に注目すると非常勤勤務医 21.6%であり、男性の 6.7%にくらべ非常勤の割合が高い。さらに子供のいる男性医師と女性医師について 39 歳未満に注目すると、男性では常勤勤務医 62.1%、非常勤勤務医 5.9%、開業医 6.4%に対し女性で順に、44.0%、25.3%、5.3%と既婚全体及び子供のいない女性医師に比べ非常勤の割合が高くなる。



問 12 現在の 1 週間の実労働時間

1 週間の実労働時間は男性 52.8±19.3 時間、女性 46.8±21.4 時間であった。子供がいない場合に比べ、子どもがいる場合は一週間当たりの就労時間平均が 39 歳未満では 23 時間、40-59 歳では 10 時間短かった。開業医と常勤勤務医を比較するといずれも後者の方が長い。収入の分布と比較すると、時間辺りの収入は前者の方が後者よりも高額であることが推測される。特記すべきは、非常勤医師でも 39 歳以下では男性の実働時間の平均は 67 時間、女性は 41 時間にもおよんでいたことである。これは、労働基準法の労働時間からいえば常勤の基準を満たしている。以上の結果は、小児科医師における長時間勤務の実態を示している。また病院の種類別にみると、大学病院が実働時間は最も長く、公的病院、私的病院、診療所の順に平均は 1 週間あたり 10 時間ずつ短かった。

問 13 主な職場はどこか

男性は公的病院勤務が 24.1%、大学病院勤務が 14.7%であり、女性は公的病院勤務が 22.5%、診療所が 30.3%、大学病院勤務は 13.6%であった。

問14 現在の立場（主たるものをひとつだけ）

開業の場合の院長・副院長を別として、部長、医長、教授、助教授、講師では、女性に比べて男性の割合が高かった。

現在の立場	1:男 (≤39)	2:男 (40-59)	3:男 (≥60)	4:女 (≤39)	5:女 (40-59)	6:女 (≥60)	Total
院長	49	832	626	17	232	145	1901
副院長	11	121	38	21	153	36	380
部長	25	390	29	10	99	16	569
医長	143	356	12	94	129	10	744
学長	.	.	3	.	1	.	4
副学長	.	2	5	.	1	.	8
学部長	2	70	34	.	10	5	121
教授	3	63	1	2	11	.	80
助教授	16	118	.	1	19	.	154
講師	1	.	7	5	4	1	18
助手	140	67	.	85	22	.	314
医員	387	62	38	443	90	21	1041
なし	77	9	16	178	91	14	385
その他	137	87	130	186	136	26	702
不明	71	167	127	59	72	33	529
Total	1062	2344	1066	1101	1070	307	6950

問 15 現在の専門分野（主たるものをひとつだけ）
 男性の 39 歳以下では小児科 88%、基礎医学 1.7%、40-59 歳では小児科 85.4%、内科 2.4%、60 歳以上では小児科 78%、内科 4.5%であった。女性では 39 歳以下で小児科 89.8%、内科 0.7%、40-59 歳では小児科 82.9%、その他 3.6%、60 歳以上は小児科 80.7%、内科 5.8%であった。

問 16 1 ヶ月に当直は何回あるか
 1 ヶ月の当直回数は男性で 2.2±3.3 日、女性で 1.8±2.8 日であった。
 当直回数は、大学病院の 39 歳以下の男性が 5.0±2.4 で最も多く、次いで同年齢群の男性の公的病院、私的病院、女性の大学病院、40-59 歳の男性の公的病院、私的病院、大学病院、女性の公的病院、私的病院、大学病院の順であった。

問 17 1 ヶ月に休日は何回あるか（学会参加や会議出席は除く）

1ヶ月の休日回数	1:男 (≤39)	2:男 (40-59)	3:男 (≥60)	4:女 (≤39)	5:女 (40-59)	6:女 (≥60)	Total
ない	200	113	25	151	26	4	519
1～4日	623	1095	271	493	381	88	2951
5～7日	188	881	422	228	339	102	2160
8日以上	41	234	281	212	307	90	1165
不明	10	21	67	17	17	23	155
Total	1062	2344	1066	1101	1070	307	6950

男性女性ともに 1～4 日と回答したものが最も多く男性で 44.5%、女性で 38.8%をしめた。休日がないと回答したものは男女ともに 7%程度存在した。

問 18 現在の仕事の状況の満足度
 女性では収入、地位に満足しているものが半数を占めたが労働時間、家庭とのバランスに関しては「満足」「どちらともいえない」「過重である」がそれぞれ 3 割ずつを占めた。労働時間については男性も「過重である」と答えたものが 4

割を超え、長時間労働が小児科医の負担となっていることをうかがわせる。表中の数字は各項目の回答者数を示し、回答者数が最も多いセルに男性は水色、女性はローズで着色した。

収入	1:男 (≤39)	2:男 (40-59)	3:男 (≥60)	4:女 (≤39)	5:女 (40-59)	6:女 (≥60)	Total
満足している	184	924	462	184	516	137	2407
どちらともいえない	168	573	303	94	200	57	1395
過重である	4	19	7	0	4	1	35
もの足りない	232	601	164	111	107	34	1249
不明	6	21	62	22	14	23	148
Total	594	2138	998	411	841	252	5234
地位	1:男 (≤39)	2:男 (40-59)	3:男 (≥60)	4:女 (≤39)	5:女 (40-59)	6:女 (≥60)	Total
満足している	249	1125	621	183	510	161	2849
どちらともいえない	223	721	263	139	231	46	1623
過重である	28	69	20	6	22	8	153
もの足りない	88	199	18	61	66	10	442
不明	6	24	76	22	12	27	167
Total	594	2138	998	411	841	252	5234
労働時間	1:男 (≤39)	2:男 (40-59)	3:男 (≥60)	4:女 (≤39)	5:女 (40-59)	6:女 (≥60)	Total
満足している	131	577	472	157	337	116	1790
どちらともいえない	162	539	226	97	218	52	1294
過重である	280	976	207	93	242	58	1856
もの足りない	15	26	17	40	28	5	131
不明	6	20	76	24	16	21	163
Total	594	2138	998	411	841	252	5234
技能・能力の発揮	1:男 (≤39)	2:男 (40-59)	3:男 (≥60)	4:女 (≤39)	5:女 (40-59)	6:女 (≥60)	Total
満足している	171	810	436	102	302	112	1933
どちらともいえない	243	796	341	168	333	85	1966
過重である	25	91	40	8	44	13	221
もの足りない	148	413	97	110	144	22	934
不明	7	28	84	23	18	20	180
Total	594	2138	998	411	841	252	5234
家庭とのバランス	1:男 (≤39)	2:男 (40-59)	3:男 (≥60)	4:女 (≤39)	5:女 (40-59)	6:女 (≥60)	Total
満足している	134	692	538	134	282	121	1901
どちらともいえない	173	704	265	92	235	56	1525
過重である	163	508	82	135	288	50	1226
もの足りない	115	201	28	28	17	5	394
不明	9	33	85	22	19	20	188
Total	594	2138	998	411	841	252	5234

問 19 これまでに休職したことがあるか

男性の 8.4%、女性の 47.0%が休職を経験している。

問 20 問 19 ではいと答えた者は卒後何年目に休職したか

男性では 20.1±14.7 年目、女性では 7.0±6.4 年目と女性のほうが卒後早期に休

職経験があることがわかった。年齢が上がれば休職経験が増えてその平均年齢が各世代で上がる事が想定されるが、特に 40-59 歳群についてみると、男性では休職平均年齢は卒後 12.8±6.9 年であるのに対し、同年代の女性の休職平均年齢は 6.9±5.7 年であった。つまり女性は 30 歳前後での休職経験が圧倒的に高いことになる。

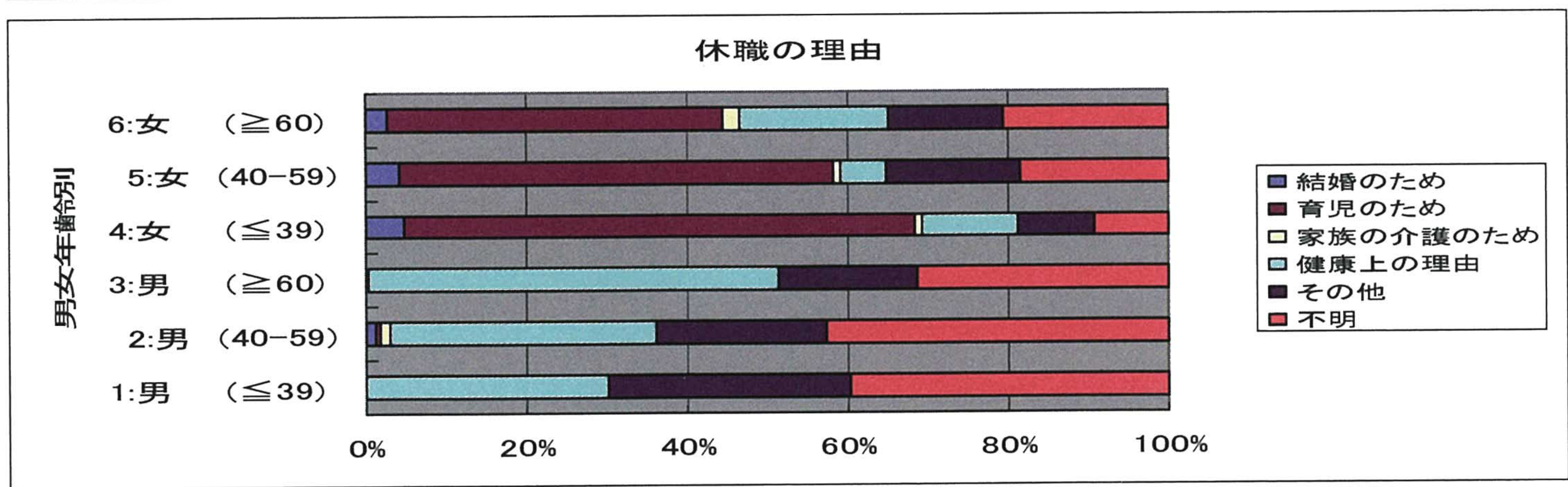
問 21 これまでに専門分野を変更したことがあるか
男性の 9.0%、女性の 11.4%に専門分野の変更経験があった。

問 22 （問 21 ではいと答えたもの）卒後何年目に転向したか
男性では卒後 13.6±11.7 年目、女性では 9.7±7.7 年目であり、女性のほうが卒後早期に専門分野の変更経験があることがわかった。

問 23 （問 21 ではいと答えたもの）転向前の専門分野
男女共に各年代で転向前の分野は小児科が半数以上を占めている。

問 24 仕事をしていない、または休職したことがある場合の理由
休職中あるいは休職したことがある女性のうち育児が理由であったものが 26.9%と、育児がもっとも大きな理由であった。

休職の理由	1:男 (≤39)	2:男 (40-59)	3:男 (≥60)	4:女 (≤39)	5:女 (40-59)	6:女 (≥60)	Total
結婚のため	.	2	.	22	25	4	53
育児のため	.	1	1	285	319	61	667
家族の介護	.	2	.	4	6	3	15
健康上の理由	16	55	115	54	33	27	300
その他	16	35	39	43	98	21	252
不明	21	71	71	42	110	30	345
Total	53	166	226	450	591	146	1632



問 25 これまでに非常勤としてのみ勤務したことがあるか
男性の 19.1%に比べて女性は 42.1%が非常勤としてのみ勤務した経験があった。
40-59 歳の女性医師の 50.2%に非常勤としてのみ勤務した経験がある。

Q25	1:男 (≤39)	2:男 (40-59)	3:男 (≥60)	4:女 (≤39)	5:女 (40-59)	6:女 (≥60)	Total
はい	299	441	117	411	538	92	1898
いいえ	722	1795	856	660	494	196	4723
不明	41	108	93	30	38	19	329
Total	1062	2344	1066	1101	1070	307	6950

問 26 （問 25 ではいと答えたもの）卒後何年目に非常勤となったか
 男性は 8.0±10.4 年目、女性は 7.9±6.2 年目であり、非常勤になった年数に男女差は見られなかった。いずれも卒後 10 年以内であることがわかった。

問 27 開業の場合、卒後何年目に開業したか
 男性では 14.5±6.1 年目、女性では 14.0±6.6 年目と開業している場合の開業年数には男女差が見られなかった。

問 28 充実した仕事を続けるため支障になっているもの
 女性は、就職先や、大学に戻ること、再教育の場、職場の人間関係、職場の性差別は支障にならないと考えるものが多かったが、妊娠・出産（34.6％）育児（43.3％）子どもの教育（24.9％）は支障になると考える割合が高かった。また自分の能力（23.8％）自分の体力（32.4％）に不安を抱えるものが多かった。自分の体力については男性も 25％以上のものが不安を抱えていた。なお、39 歳未満では男女共に、労働条件の悪さがキャリア形成の支障になると考えるものが 40％近くに及んだ。選択肢の中でキャリア形成の支障になるものはないかどうかについては 40 歳未満、60 歳未満の女性とそれ以外の男性および女性の年齢区分の医師との間に乖離が見られた。表中、各項目が仕事継続の支障に当てはまると考える回答者数が、年齢別回答者数の 20％以上を占めるセルに、男性は水色、女性はローズで着色した。（最後の「支障はない」については、「あてはまる」は、仕事を続けるために支障はないと考える回答者を示す）

結 婚	1:男 (≤39)	2:男 (40-59)	3:男 (≥60)	4:女 (≤39)	5:女 (40-59)	6:女 (≥60)	Total
あてはまらない	1018	2311	1063	911	937	270	6510
当てはまる	44	33	3	190	133	37	440
Total	1062	2344	1066	1101	1070	307	6950
妊 娠 ・ 出 産	1:男 (≤39)	2:男 (40-59)	3:男 (≥60)	4:女 (≤39)	5:女 (40-59)	6:女 (≥60)	Total
あてはまらない	1054	2342	1064	667	727	228	6082
当てはまる	8	2	2	434	343	79	868
Total	1062	2344	1066	1101	1070	307	6950
育 児	1:男 (≤39)	2:男 (40-59)	3:男 (≥60)	4:女 (≤39)	5:女 (40-59)	6:女 (≥60)	Total
あてはまらない	986	2266	1061	622	572	211	5718
当てはまる	76	78	5	479	498	96	1232
Total	1062	2344	1066	1101	1070	307	6950

子どもの教育	1:男 (≤39)	2:男 (40-59)	3:男 (≥60)	4:女 (≤39)	5:女 (40-59)	6:女 (≥60)	Total
あてはまらない	999	2133	1054	892	711	257	6046
当てはまる	63	211	12	209	359	50	904
Total	1062	2344	1066	1101	1070	307	6950
家族の支援のなさ							
あてはまらない	1030	2261	1049	963	838	268	6409
当てはまる	32	83	17	138	232	39	541
Total	1062	2344	1066	1101	1070	307	6950
自分の病気							
あてはまらない	1016	2169	943	1029	971	266	6394
当てはまる	46	175	123	72	99	41	556
Total	1062	2344	1066	1101	1070	307	6950
自分の能力							
あてはまらない	865	1937	931	868	779	240	5620
当てはまる	197	407	135	233	291	67	1330
Total	1062	2344	1066	1101	1070	307	6950
自分の体力							
あてはまらない	820	1693	818	742	707	228	5008
当てはまる	242	651	248	359	363	79	1942
Total	1062	2344	1066	1101	1070	307	6950
希望する就職先が無い							
あてはまらない	981	2215	1053	999	1003	301	6552
当てはまる	81	129	13	102	67	6	398
Total	1062	2344	1066	1101	1070	307	6950
大学に戻れない							
あてはまらない	1027	2306	1066	1077	1038	301	6815
当てはまる	35	38	.	24	32	6	135
Total	1062	2344	1066	1101	1070	307	6950
再教育の場が無い							
あてはまらない	1010	2247	1044	980	920	284	6485
当てはまる	52	97	22	121	150	23	465
Total	1062	2344	1066	1101	1070	307	6950
労働条件の悪さ							
あてはまらない	643	1813	1024	698	877	290	5345
当てはまる	419	531	42	403	193	17	1605
Total	1062	2344	1066	1101	1070	307	6950
職場の人間関係							
あてはまらない	913	2118	1040	963	988	299	6321
当てはまる	149	226	26	138	82	8	629
Total	1062	2344	1066	1101	1070	307	6950
職場の性差別							
あてはまらない	1060	2343	1066	1048	998	291	6806
当てはまる	2	1	.	53	72	16	144
Total	1062	2344	1066	1101	1070	307	6950

職場の支援のなさ	1:男 (≤39)	2:男 (40-59)	3:男 (≥60)	4:女 (≤39)	5:女 (40-59)	6:女 (≥60)	Total
あてはまらない	914	2138	1053	913	963	298	6279
当てはまる	148	206	13	188	107	9	671
Total	1062	2344	1066	1101	1070	307	6950
転勤							
あてはまらない	934	2300	1064	1004	1042	304	6648
当てはまる	128	44	2	97	28	3	302
Total	1062	2344	1066	1101	1070	307	6950
配偶者の転勤・留学							
あてはまらない	1051	2329	1065	954	932	280	6611
当てはまる	11	15	1	147	138	27	339
Total	1062	2344	1066	1101	1070	307	6950
金銭的な問題							
あてはまらない	856	2061	1022	1035	1034	300	6308
当てはまる	206	283	44	66	36	7	642
Total	1062	2344	1066	1101	1070	307	6950
介護							
あてはまらない	1041	2265	1047	1078	932	275	6638
当てはまる	21	79	19	23	138	32	312
Total	1062	2344	1066	1101	1070	307	6950
支障は無い							
あてはまらない	872	1658	573	1017	958	223	5301
当てはまる	190	686	493	84	112	84	1649
Total	1062	2344	1066	1101	1070	307	6950

問 29 仕事が充実するために次のものは必要か（ひとつずつについて回答）
「絶対必要」と「かなり必要」と考える回答者数が 50%を超える項目は、女性
医師では専門医などの認定期間の延長、勤務医師の労働条件の明確化、勤務医
師の身分の明確化、育児施設の充実、学会の託児所設置、介護制度の充実、職
場の意識変革、ワークシェアリング制度、産休、育児休暇、育児、介護にかか
わる休暇の設定、休暇取得の義務付け（男性を含む）、そしてその休暇中の代替
要員の確保であった。表中、「絶対必要」「かなり必要」「あるとよい」の各回答
者数が、年齢別回答者数の 20%以上を占めるセルに、男性は水色、女性はロー
ズで着色した。また「必要ではない」と考える回答者が 20%を超えるセルに男
性は薄い緑色で着色した。（女性では該当セルは無かった。）

キャリア相談	1:男 (≤39)	2:男 (40-59)	3:男 (≥60)	4:女 (≤39)	5:女 (40-59)	6:女 (≥60)	Total
絶対必要	331	249	42	316	178	26	1142
かなり必要	327	511	100	350	256	53	1597
あるとよい	340	879	209	372	423	94	2317
必要ではない	57	580	457	46	157	59	1356
不明	7	125	258	17	56	75	538
Total	1062	2344	1066	1101	1070	307	6950

留学・研究の機会	1:男 (≤39)	2:男 (40-59)	3:男 (≥60)	4:女 (≤39)	5:女 (40-59)	6:女 (≥60)	Total
絶対必要	232	269	52	154	109	23	839
かなり必要	340	491	96	249	233	52	1461
あるとよい	398	965	251	559	501	97	2771
必要ではない	87	505	415	126	185	64	1382
不明	5	114	252	13	42	71	497
Total	1062	2344	1066	1101	1070	307	6950
再教育制度							
絶対必要	110	142	45	258	188	44	787
かなり必要	239	387	126	282	267	58	1359
あるとよい	537	986	258	477	440	99	2797
必要ではない	170	687	361	66	132	40	1456
不明	6	142	276	18	43	66	551
Total	1062	2344	1066	1101	1070	307	6950
学会などの性比率是正							
絶対必要	81	183	58	108	111	27	568
かなり必要	206	424	140	238	255	60	1323
あるとよい	555	931	252	572	439	92	2841
必要ではない	206	649	328	156	204	57	1600
不明	14	157	288	27	61	71	618
Total	1062	2344	1066	1101	1070	307	6950
専門医など認定期間の延長							
絶対必要	142	216	87	386	252	44	1127
かなり必要	212	424	136	312	226	44	1354
あるとよい	518	930	228	345	418	112	2551
必要ではない	180	603	284	45	121	36	1269
不明	10	171	331	13	53	71	649
Total	1062	2344	1066	1101	1070	307	6950
遠隔学会参加							
絶対必要	105	207	31	128	154	19	644
かなり必要	210	490	122	250	237	45	1354
あるとよい	581	1168	352	626	540	133	3400
必要ではない	158	366	286	80	94	39	1023
不明	8	113	275	17	45	71	529
Total	1062	2344	1066	1101	1070	307	6950
労働条件の明確化							
絶対必要	588	780	161	647	448	83	2707
かなり必要	305	669	165	300	288	55	1782
あるとよい	146	532	203	139	231	70	1321
必要ではない	18	239	236	8	59	28	588
不明	5	124	301	7	44	71	552
Total	1062	2344	1066	1101	1070	307	6950
身分の明確化							
絶対必要	615	912	268	558	473	113	2939
かなり必要	265	577	136	319	288	45	1630
あるとよい	155	448	132	199	202	53	1189
必要ではない	23	274	221	12	61	23	614
不明	4	133	309	13	46	73	578
Total	1062	2344	1066	1101	1070	307	6950

人材ネットワーク	1:男 (≤39)	2:男 (40-59)	3:男 (≥60)	4:女 (≤39)	5:女 (40-59)	6:女 (≥60)	Total
絶対必要	160	196	38	199	146	26	765
かなり必要	288	509	137	291	267	49	1541
あるとよい	481	1061	298	532	484	113	2969
必要ではない	128	438	283	63	113	38	1063
不明	5	140	310	16	60	81	612
Total	1062	2344	1066	1101	1070	307	6950
育児施設充実							
絶対必要	293	450	107	713	491	113	2167
かなり必要	317	608	173	232	253	55	1638
あるとよい	353	680	216	132	189	45	1615
必要ではない	92	451	256	15	93	32	939
不明	7	155	314	9	44	62	591
Total	1062	2344	1066	1101	1070	307	6950
学会の託児所設置							
絶対必要	163	273	62	428	263	43	1232
かなり必要	235	433	125	265	258	53	1369
あるとよい	490	941	263	355	357	95	2501
必要ではない	169	543	296	40	143	42	1233
不明	5	154	320	13	49	74	615
Total	1062	2344	1066	1101	1070	307	6950
介護制度の充実							
絶対必要	148	260	85	243	278	50	1064
かなり必要	289	590	174	307	349	73	1782
あるとよい	516	956	248	481	327	90	2618
必要ではない	100	377	243	45	67	24	856
不明	9	161	316	25	49	70	630
Total	1062	2344	1066	1101	1070	307	6950
職場の意識が変わる							
絶対必要	334	437	62	453	306	44	1636
かなり必要	368	710	191	336	329	79	2013
あるとよい	288	725	202	245	286	71	1817
必要ではない	66	329	292	49	97	37	870
不明	6	143	319	18	52	76	614
Total	1062	2344	1066	1101	1070	307	6950
家族の意識が変わる							
絶対必要	80	155	37	234	266	52	824
かなり必要	218	451	151	296	299	75	1490
あるとよい	503	923	219	396	300	72	2413
必要ではない	249	662	344	155	158	38	1606
不明	12	153	315	20	47	70	617
Total	1062	2344	1066	1101	1070	307	6950
ワークシェアリング制度							
絶対必要	113	159	26	308	200	32	838
かなり必要	250	475	125	321	314	68	1553
あるとよい	534	1037	293	418	394	89	2765
必要ではない	148	507	291	30	100	41	1117
不明	17	166	331	24	62	77	677
Total	1062	2344	1066	1101	1070	307	6950

産休などの休暇の設定	1:男 (≤39)	2:男 (40-59)	3:男 (≥60)	4:女 (≤39)	5:女 (40-59)	6:女 (≥60)	Total
絶対必要	290	347	98	704	432	91	1962
かなり必要	332	583	160	244	292	54	1665
あるとよい	367	888	247	129	244	73	1948
必要ではない	66	375	241	13	63	24	782
不明	7	151	320	11	39	65	593
Total	1062	2344	1066	1101	1070	307	6950
上記休暇取得の義務付け							
絶対必要	289	334	65	544	310	58	1600
かなり必要	311	520	152	284	274	66	1607
あるとよい	351	874	260	210	319	73	2087
必要ではない	105	479	273	49	122	39	1067
不明	6	137	316	14	45	71	589
Total	1062	2344	1066	1101	1070	307	6950
上記休暇中の代替医師の確保							
絶対必要	431	658	118	675	498	90	2470
かなり必要	332	632	194	265	256	60	1739
あるとよい	260	725	234	142	231	68	1660
必要ではない	32	210	217	9	44	23	535
不明	7	119	303	10	41	66	546
Total	1062	2344	1066	1101	1070	307	6950

問 30 あなたの職場にその制度があるか

職場にある制度については男性医師女性医師の間に認識の差はなかった。39 歳以下の男性においては、妊娠中の緩和措置、妊娠中の深夜勤務免除、産休中の給与支払い、産休中の身分保障、育児休暇中の代替要員、育休中の給与支払い、育休中の身分保障、介護休業制度について、「わからない」と回答したものが半数以上を占めた。40-59 歳の男性医師、39 歳以下及び 40-59 歳の女性医師では、産休中の代替要員、育休中の代替要員、職場内保育園・託児所は「ない」と回答したものが半数以上を占めた。

問 31 またそれを自分が実際に利用したか

妊娠中の深夜勤務免除、産休中の代替要員、産休中の身分保障、育休中の身分保障、育休中の代替要員、育休中の身分保障、職場内保育所・託児所について、39 歳以下の子どものある女性のうち、3 分の 1 以上が「利用したかったが出来なかった」と回答した。また、40 から 59 歳の女性では、育児休業制度、育休中の代替要員、育休中の給与支払いについて 3 分の 1 以上が「利用したかったが出来なかった」と回答した。一方、男性では各年代において、子どもがあるもののうち、「利用したかったができなかった」の回答者が 3 分の 1 以上を占めた項目はなかった。これは、育児に対する男女の認識の違いを示していると思われる。

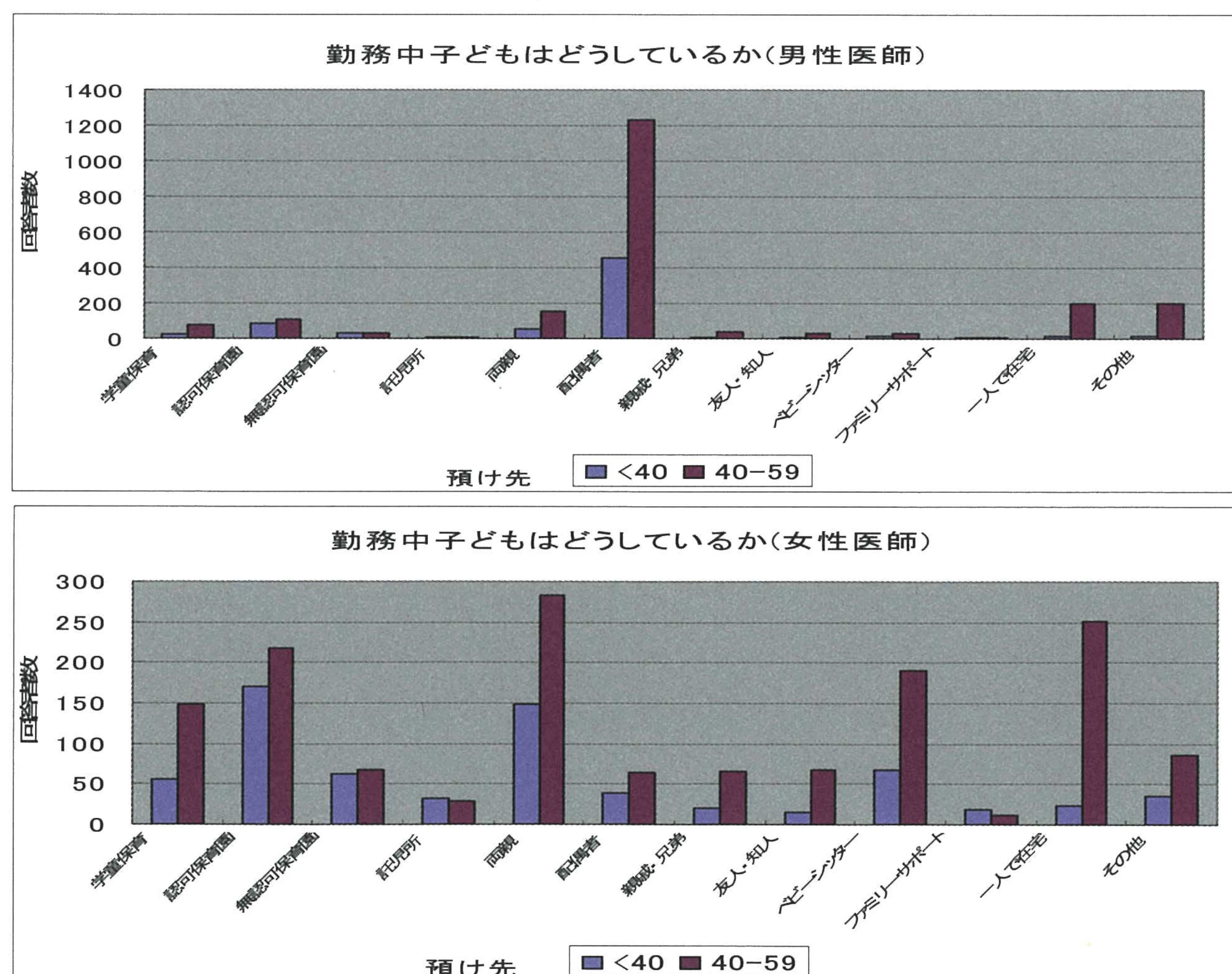
問 32 またそれは一般的に必要なと思うか

男性女性ともに 39 歳以下の年代では、すべての項目について、「絶対必要」「かなり必要」を合わせた回答数が半数以上を占めた。40-59 歳でも、男性女性ともに、産休及び育休中の給与支払い以外の項目について、「絶対必要」「かなり必要」を合わせた回答数が半数以上を占めた。60 歳以上の年代では、男性はすべての項目について、「絶対必要」「かなり必要」を合わせた回答数が半数を超えなかった。女性の 60 歳以上の年代では、妊娠中の深夜業務免除と産休中給与支払いについては「絶対必要」「かなり必要」を合わせた回答数が半数を超えた。

以降は子どもがある人への質問

問 33 通常の勤務中、子どもはどうしているか（あてはまるものすべて）

子供のいる女性は、39 歳以下の年代では、子どもの預け先として、学童保育 13.3%、認可保育園 41.6%、無認可保育園 15.0%、両親 36.2%、ベビーシッター 16.5%を頼んでいる。40-59 歳になると学童保育 17.7%、認可保育園 25.8%、無認可保育園 7.9%、両親 33.6%、ベビーシッター 22.5%となる。子どもが年長になることを反映すると思われるが、シッター代などの経済的負荷、両親への負荷も大きいことが予測される。またこの年代では、29.8%の子どもが「一人では在宅」している状況もある。自分の勤務中に、配偶者が子どもを見ている割合は、男性の 39 歳以下で 76%、40-59 歳で 57.4%である。これに対し、女性の配偶者が子供を見ている割合は、39 歳以下で 9.4%、40-59 歳で 7.6%であった。



問 34 勤務に当たって次のことは問題になったか

39 歳以下の女性では、保育園の入所、子供の急病時の対応、子どもの感染症、子どもの習い事、子どもの教育、保育園行事、学校での行事、学校の長期休業が問題になっていると回答したものが 20%を超えた。40-59 歳の女性では、これに加えて子どもの心理的問題、学校・学級閉鎖が問題となっていた。特に子供の急病時の対応、子供の感染症、保育園での行事は半数以上の回答者が問題としていた。39 歳以下の男性の 20%以上も、子供の急病時の対応、保育園での行事を問題としていた。表中、「問題になった」回答者数が年齢別回答者数の 20%以上を占めたセルに、男性は水色、女性はローズで着色した。

保育園の入所	1:男 (≤39)	2:男 (40-59)	3:男 (≥60)	4:女 (≤39)	5:女 (40-59)	6:女 (≥60)	Total
問題になった	65	121	24	124	227	38	599
問題は起こらなかった	403	1432	282	162	341	73	2693
起こったが問題にならず	27	93	31	44	107	13	315
不明	99	492	661	81	166	128	1627
Total	594	2138	998	411	841	252	5234
子どもの急病時の対応							
問題になった	126	266	36	227	383	60	1098
問題は起こらなかった	288	1093	248	39	119	55	1842
起こったが問題にならず	88	317	72	69	195	34	775
不明	92	462	642	76	144	103	1519
Total	594	2138	998	411	841	252	5234
子どもの感染症							
問題になった	82	172	32	186	335	55	862
問題は起こらなかった	344	1215	247	85	148	57	2096
起こったが問題にならず	73	293	76	63	212	36	753
不明	95	458	643	77	146	104	1523
Total	594	2138	998	411	841	252	5234
子どもの慢性疾患							
問題になった	35	83	17	45	99	20	299
問題は起こらなかった	440	1445	294	261	509	92	3041
起こったが問題にならず	24	128	35	24	71	24	306
不明	95	482	652	81	162	116	1588
Total	594	2138	998	411	841	252	5234
子どもの習い事							
問題になった	63	210	21	105	244	27	670
問題は起こらなかった	383	1158	273	180	236	78	2308
起こったが問題にならず	52	305	63	40	212	35	707
不明	96	465	641	86	149	112	1549
Total	594	2138	998	411	841	252	5234
子どもの教育							
問題になった	61	229	27	102	271	33	723
問題は起こらなかった	402	1150	268	190	241	85	2336
起こったが問題にならず	37	297	61	30	184	28	637
不明	94	462	642	89	145	106	1538
Total	594	2138	998	411	841	252	5234

子どもの心理的問題	1:男 (≤39)	2:男 (40-59)	3:男 (≥60)	4:女 (≤39)	5:女 (40-59)	6:女 (≥60)	Total
問題になった	44	215	34	81	198	48	620
問題は起こらなかった	433	1325	283	227	394	73	2735
起こったが問題にならず	22	132	42	20	98	23	337
不明	95	466	639	83	151	108	1542
Total	594	2138	998	411	841	252	5234
保育園での行事							
問題になった	140	336	26	169	347	55	1073
問題は起こらなかった	287	1001	258	90	148	54	1838
起こったが問題にならず	72	334	66	74	200	36	782
不明	95	467	648	78	146	107	1541
Total	594	2138	998	411	841	252	5234
学校での行事							
問題になった	118	376	32	124	377	62	1089
問題は起こらなかった	313	932	250	125	107	46	1773
起こったが問題にならず	55	367	78	43	208	45	796
不明	108	463	638	119	149	99	1576
Total	594	2138	998	411	841	252	5234
学級・学校閉鎖							
問題になった	28	83	21	74	192	28	426
問題は起こらなかった	437	1356	278	199	286	74	2630
起こったが問題にならず	27	228	57	34	212	41	599
不明	102	471	642	104	151	109	1579
Total	594	2138	998	411	841	252	5234
学校の長期休業							
問題になった	60	150	18	106	280	34	648
問題は起こらなかった	393	1310	305	149	190	75	2422
起こったが問題にならず	40	207	37	50	221	36	591
不明	101	471	638	106	150	107	1573
Total	594	2138	998	411	841	252	5234
保育園の安全管理への不安							
問題になった	41	69	9	64	86	19	288
問題は起こらなかった	442	1504	309	238	506	92	3091
起こったが問題にならず	13	81	32	28	84	17	255
不明	98	484	648	81	165	124	1600
Total	594	2138	998	411	841	252	5234
学童の安全管理への不安							
問題になった	30	73	10	34	82	15	244
問題は起こらなかった	442	1500	315	231	491	90	3069
起こったが問題にならず	17	82	28	14	79	17	237
不明	105	483	645	132	189	130	1684
Total	594	2138	998	411	841	252	5234

問 35 問 34 のような問題にどのように対応したか（当てはまるものすべて）
女性 の 39 歳以下及び 40-59 歳以下の年代では、子供に起こった問題に対して、半数以上が、「両親に頼む」か「自分が仕事を休む」ことで対応していた。また、40-59 歳の女性では 3 分の 1 以上でベビーシッターも活用していた。39 歳以下の男性医師でも 3 分の 1 以上が子供の問題に対して両親に頼む姿勢が見られた。

両親に頼んだ	1:男 (≤39)	2:男 (40-59)	3:男 (≥60)	4:女 (≤39)	5:女 (40-59)	6:女 (≥60)	Total
あてはまらない	378	1575	896	151	333	158	3491
当てはまる	216	563	102	260	508	94	1743
Total	594	2138	998	411	841	252	5234
無認可保育園に預けた							
あてはまらない	570	2087	990	363	724	237	4971
当てはまる	24	51	8	48	117	15	263
Total	594	2138	998	411	841	252	5234
病児保育を利用							
あてはまらない	584	2125	998	374	823	251	5155
当てはまる	10	13	.	37	18	1	79
Total	594	2138	998	411	841	252	5234
学童保育に預けた							
あてはまらない	578	2076	990	379	694	242	4959
当てはまる	16	62	8	32	147	10	275
Total	594	2138	998	411	841	252	5234
ベビーシッターを頼んだ							
あてはまらない	550	2014	974	307	521	185	4551
当てはまる	44	124	24	104	320	67	683
Total	594	2138	998	411	841	252	5234
ファミリーサポート利用							
あてはまらない	574	2115	997	371	828	249	5134
当てはまる	20	23	1	40	13	3	100
Total	594	2138	998	411	841	252	5234
自分が仕事を休んだ							
あてはまらない	484	1826	967	160	386	193	4016
当てはまる	110	312	31	251	455	59	1218
Total	594	2138	998	411	841	252	5234
配偶者が仕事を休んだ							
あてはまらない	494	1759	933	307	670	244	4407
当てはまる	100	379	65	104	171	8	827
Total	594	2138	998	411	841	252	5234
自分が仕事をやめた							
あてはまらない	593	2132	996	358	714	228	5021
当てはまる	1	6	2	53	127	24	213
Total	594	2138	998	411	841	252	5234

配偶者が仕事を辞めた							
あてはまらない	530	2031	975	407	837	252	5032
当てはまる	64	107	23	4	4	.	202
Total	594	2138	998	411	841	252	5234
その他							
あてはまらない	522	1805	873	388	754	224	4566
当てはまる	72	333	125	23	87	28	668
Total	594	2138	998	411	841	252	5234

<まとめ>

本調査は 2004 年 1 月に実施されたが、日本小児科学会会員の皆様のご協力を得て多数の質問に丁寧にご回答いただいた結果、貴重なデータを集積することが出来た。その後、臨床研修プログラムの開始、各種女性医師支援の計画実践なども始まり、小児科医師を取り巻く環境も変化を遂げて現在に至るが、本調査結果はその前の状況を反映していると考えることができる。

本調査において、小児科医師の厳しい業務の実態が明らかになった。少子化が進み、患者となる子どもの数は減少している現代においても、小児科医の負担の大きさは変わっていない現状が今回の調査で明らかになった。このように、小児科医全体は業務が過重であるとする一方で、39 歳以下の女性医師の 10.9% が「現在働いていない」と回答し、このうちの 54.2% は職場に籍がない状態であった。働いている場合でも非常勤で勤務する者の割合は、男性に比べて高かった。また女性医師が休職を経験した割合は 47.0% であり、その休職の時期は卒後 7 年目前後であり、男性医師に比較して早期に訪れている。これは妊娠・出産・育児に伴う休職が影響すると思われるが、実際、働いていない、もしくはこれまでの休職の理由としては育児が最も大きな理由であった。これより、他職種と同様、妊娠・出産・育児にかかわる女性医師の休職は、小児科医の労働力損失に大きく関与していると推察される。また、小児科医が「キャリア形成の支障」としてあげる項目に、女性は、妊娠・出産、育児、子どもの教育、家族の支援がないこと、再教育の場がないことなどをあげているが、これらの項目が子どものある男性医師においては自らのキャリア形成の支障としてあげられた割合は低い。これは、育児にかかわる要素の多くを女性が担っている状況を明確に示している。

一方で、性別にかかわらず小児科医全体が必要と考える支援としては、労働条件の明確化、身分の明確化、育児休暇の設定、介護休暇の設定、職場の意識変革、産休などにかかわる休暇の設定、これらの休暇取得の義務付け、これら

の休暇中の代替医師の確保があげられていた。特筆すべきは、39歳未満の男性も育児休暇の設定、介護休暇の設定、職場の意識が変わること、産休などにかかわる休暇の設定、これらの休暇取得の義務付け、これらの休暇中の代替医師の確保を必要と考えていることである。若年世代では、確実に家庭生活と業務のバランスすなわちワークライフ・バランスの考え方が重要視されていることが示され、その上の年齢層と比較すると意識の変化がうかがわれる。

本調査結果より、妊娠・出産にかかわる勤務軽減の措置や育児施設の充実、ワークシェアやフレックスの導入を行うことは、直接的に家庭と勤務の両立に悩む女性医師や家族を救うと考えられ、現在の小児科医師不足を改善する一方策となることがわかる。しかし、現状を見ると、育児中の女性医師の業務軽減により生じた負担を、職場の上司や同僚・部下である周囲の男性・女性医師が総力を上げてカバーしなければならない状況が生じているのも事実である。支援する側に過重な負担が生じるために、不公平感が生まれる。支援される側も、後ろめたさや居心地の悪さ、仕事も家庭も全うできないという罪悪感・不全感に悩まされる。支援する側もされる側も、お互いの立場を想像し思いやる余裕が失われて、解決の糸口が見つからない場合には休職・退職といった事態に陥っている。その結果、医師数減となり、益々小児科医師の業務が厳しくなるという、負のスパイラルに陥る。そうならないためには、子育てにかかわる女性医師の支援は継続しながら、職場でその女性医師を取り巻く立場の医師への待遇・評価こそをより手厚くする、総医師数を増加させるなど、医師全般の勤務環境を改善していくことが重要である。また妊娠・出産・育児にあたっては、女性が勤務を継続する、勤務を軽減して働く、あるいは一時的に職を離れるなど、現在でもいろいろなスタイルが存在しているが、配偶者の働き方も含めて今後ますます多様化することが予測される。一時的に勤務形態が変わったとしても、何らかの形で、一生を通じて小児科医療を担う志を育む医学教育も必要であろう。

今回の調査をもとに、今後も医師を取り巻く勤務環境の変化や支援の普及などについて実態調査を継続し、情報を公開していく必要がある。医師を対象として調査を実施した場合に生じる問題点の1つとして回答率が低いことが挙げられ、特に業務関連の調査では、その回答が重視される若年世代からの回答回収率が低くなる傾向がある。しかし、現状をより正確に把握し改善していくためには、できるだけ多くの方の協力が必要となる。本年度は、第2回目の実態調査を行うが、小児科医師の勤務状況の改善のための方策を探ることを目的とし、今回の調査結果とともにその結果を最大限有効に活用したいと考えている。

本報告書は、平成21年度厚生労働省成育医療研究委託事業*の支援を受けて作成した。

* (研究課題名) 女性医療従事者の支援に関する研究

(主任研究者) 国立成育医療センター 内分泌代謝科 堀川玲子

(分担研究者) 東京女子医科大学 総合研究所 竹宮孝子